

# 二葉

## 東京支部だより

第 6 号

平成11年 4月 1日 発行  
諏訪二葉高等学校同窓会  
東京支部編集委員会

題字 今井綾子 (高女28回)



### 二十一世紀に向けて

— 東京支部のあゆみ —

支部長 北山千恵 (高校七回)

お元気ですか。今世紀最後の発行となります東京支部だより「二葉」をお届けします。東京支部の母体は、大正十二年に八名の先輩によって形づくられ、その灯は歴代の役員会員の方々に引き継がれ徐々に大きくなりつつありました。戦争によって一旦はちりちりになってしまいましたが、昭和二十五年一月に学芸大退分校で復活の集いが持たれ、同年四月、京橋の片倉ビル七

階において七十名の会員の出席のもと、新たに同窓会東京支部がスタートしました。二十七年五月、三井為友先生編集の「常盤木」一号が発行されました。手刷りの会報ですが同窓会ができた喜び、諏訪の地の自然の素晴らしさが溢れんばかりに綴られており、熱気が直接伝わってくる内容でした。その後会報は発行されなかったようです。

平成元年に発行された「東

京支部のあゆみ」も後輩の負担を慮って単発の形をとっていましたが、後に続く歴代支部長はじめ役員・幹事・会員の方々の熱意によって継続され今日に至りました。少子高齢化の波が益々高くなるうとしている現在、同窓生同士がそれぞれの立場で助け合い手を繋ぎ合っていく場として、同窓会はその重要さを増して行くものと思います。

今世紀に築かれた母体を礎に、二十一世紀に向けて、同窓会において活発な活動と交流がなされますよう、祈っています。

### 同窓生の輪は

#### 優しさの輪でした

前支部長 青木朋江 (高校六回)

陽春の候、皆様、お元気でいらっしゃいますか。昨年、私の個人的な多忙さもあって前役員ならびに幹事の皆さんには随分と負担をお掛けしてしまいました。名簿の発行は全員初めての仕事でしたから、ほとんどが試行錯誤の繰り返しでした。でもその取り組みの中で、二葉を愛する人々の協力の輪は大き

く広がり、東京支部の会員数も飛躍的に増え、名簿発行の意義を改めて確認することができました。総会では、野村トモ先生とその御令妹志村徳子様のご尽力で校歌の作曲者、平井康三郎先生をお招きすることができました。平井先生の美しい歌と慈愛溢れるお話に聞きほれる参加会員の表情が今も心

に浮かびます。その

日歌われた校歌は総会のための新作の二重唱でした。この楽譜は平井先生から本校にご寄贈いただきました。東京支部の運営に関わりました二年間に、二葉高校は私の心の中に再び大きな存在として立ち戻ってきたような気がしています。幹事会、総会などでの、先生方、先輩そして後輩の皆様との触れ合いの中で幾度心温まる思いを味わったことでしょう。同じ二葉ヶ丘に学んだ者同士のつながりは不思議な優しさの輪なのだと思感したことでした。

### 平成11年 東京支部総会のお知らせ

日時 平成11年 5月25日 (火)  
10:30 ~ 15:30

会場 日本青年館 4F 東洋軒  
TEL 03-3475-2525

講演 講師 大村はま先生

演題 「子どもを育てながら 育てられながら」

昼食パーティー 会費 5,000円

### 本部定期総会のご案内

日時 平成11年 5月15日 (土)  
9:00~

会場 シティホテル成田屋  
TEL 0266-52-4500

申込みは母校事務局へ  
TEL 0266-52-4628



諏訪二葉高等学校  
同窓会会長

高林 徳枝 (高校八回)

東京支部の皆様如何お過ごしでしょうか。

私にとっては就任早々の仕事始めが東京支部総会でござ



諏訪二葉高等学校校長  
重田 肇

昨春発行されました東京支部会員名簿によりますと、登録会員数は四千三百名を超えるとのことでございます。本校の要覧によれば平成九年度現在、卒業生総数一八六五二名、内、諏訪高女卒四二一九名、男子一千余名、九十年の

# 東京支部だよりに寄せて

歴史の重みに感慨を深くする所です。名簿発行にあたりご苦労された関係の皆様にご敬意と感謝を表すると共に、青木前支部長さんの「この名簿が二葉同窓生同士の心のきずなをさらに強め、広めるものとして役立つこと」を私も願うものであります。

東京支部総会には一昨年、昨年と出席させて頂きました。本年は会議の為欠席し大変失礼を致しました。五月と言えども何を向いても緑に染まり命の躍動する季節、あの野に立ったしなやかな発想への転換が求められている時代、かつての名門と云う栄光にのみ、すがることが許されない時代でもございます。その理由の一つは少子化時代であること。又一つには、かつては希少価値の高かった高校が、今や進学率九十六パーセントと云う時代の、しかも大学への一通過点にすぎない存在、更には、時代のニーズに適應されるか否かを厳しい目線で選ばれる側の学校等々、厳しい現実と対峙している訳で自

神宮の森の濃い緑が初夏の陽射しにまぶしい頃盛大に開催される東京支部総会。会員の皆様の品位にあふれ力強くひたむきな姿に感動し、一日一日を丁寧に生きることの素晴しさを教えて頂きました。「二葉ヶ丘で学び培われたものに、それぞれの華を咲かせようの努力をしながら生きる卒業生の姿が、在校生を励まし母校を栄えあるものにする力となる」との原田前同窓会長さんのお言葉に感謝し、光って存在し続ける二葉高校であるお願ひ申し上げます。

目前にして時代はめまぐるしく変貌し地球規模での激動期を迎え、今やグローバルな視

助努力もさることながら、それを支える同窓会として具体的に、より友好的な施策を早急に構築せねばと存じます。二十一世紀と云う新しい世紀に燦然と、その存在感を誇り得る母校をめざし、創立百周年に向け、今こそ、みんな心一つに英知と勇気をもって時代に雄々しく立ち向かっていきたいものです。中央にお暮らしの皆様様の磨き澄まされた時代感覚、時代認識を是非母校の為に期待すると共に皆様様の御健康御多幸を心よりお祈り申し上げます。

ために在校生に伝えることの大切さを感じております。季節は深まって前庭の木々の見事な紅葉が落葉へと進む中、新校舎の建設に向けて大体育館の解体も終り、平成十二年一月竣工を目前に工事が進んでおります。二年後には本館の解体、管理混合教室棟建設へと大きな変革の時を迎えますが、二十一世紀に向けて良き伝統を継承しながら、新しい学校づくりに一層の努力を傾注したいと思っております。皆様様の絶大なご支援を

## ☆☆ 平成8・9年度卒業生の動向 ☆☆

1) 最近の進路状況 ( )内は男子数

卒業年度	卒業生 総数	進学		就職		(浪人・家居)	
		人員	比率	人員	比率	人員	比率
平成8年度	326(117)	246(64)	75.5%	1(1)	0.3%	79(52)	24.2%
平成9年度	319(117)	229(63)	71.8%	7(4)	2.2%	83(50)	26.0%

2) 最近の学校別進学状況

卒業年度	国立大	公立大	私立大	国公短	私立短	専門	その他	計
平成8年度	16	3	112	19	50	46	0	246
平成9年度	19	4	93	12	51	50	0	229



# 恩師だより



## 佐久からの便り

飯田 正夫

昭和二十三年、諏訪二葉高校発足の年に、新卒でこの学校の社会科の教師となりました。太平洋戦争に敗れて日本は新しい道を歩きはじめたばかり。食料も物資も極端に不足していたけれど、人々の心は新しい光を求めて躍動していました。政治・経済・時事問題などの科目を担当しましたが、生徒達は探求の瞳を輝かせて食いがたって来ました。私も夢中で授業に没頭しました。やり甲斐のある仕事でした。

数年して、脊椎カリエスを患い、第一、第二腰椎を失いました。闘病生活が終わったと

き、病院長から『悪運の強い男だ、これからは余生と思え』と言われました。余生となったかどうか、二葉十三年のあと、飯田 阿南 岡谷竜上

野沢南 篠ノ井 高遠 岡谷東(篠ノ井からの三校は校長)と転勤を命ぜられ、計八高校の勤務を経験させてもらいました。昭和五十八年、三十六年に及ぶ教師生活にピリオドを打って引退しました。

南佐久・白田町の山の上に小さな家建てて、妻と二人ひっそりと暮らしています。ここへたどり着くまでに引越十一回。ここが終の住みかとなるのでしょうか、好きな油

絵を描きながらの療養生活です。現在七十四歳。大病たちとつき合いながら、よくぞここまで生きて来られたな、と思います。人生沢山のことがありました。痛恨きわまりないこともあれこれ経験して、今は一応平穏の日々。有難い

ことと感謝しています。「人生は往復切符を発行していません。一度出立したら再び帰ってきません」R・ローラ

ンハ魅せられたる魂Vの一節  
— 魂の永久のふるさと —  
その名は二葉 — よい歌詞です。

東京支部の同窓生、四三〇〇名あまりとうけたまわっています。いよいよのご発展と、皆様の多幸をお祈りいたします。

飯田正夫先生の  
プロフィール  
S23年新卒で着任して13年一般社会・時事問題を担当、岡谷東高校長で退職。小さくても天にもとどろく様な油絵を描こうと……創彩会会員。旅した宿200。白田町に在住。

が群れ遊んでいた。時あたかも昭和二十六年九月の昼下がりに。この集団は、二葉バレー部の乙女達で、南高のゴタ教師であったこの私を、是非二葉の教師になってくれろと、原敏先生(岡谷南を全校優勝させた名監督)に懇願にきたのだ。そして、私はその年の十月には憧れの二葉の教師になっ

当時女子校バレーは、非常に盛んになりつつある時で、県大会ともなると、学校あげて応援にきてくれた。そのおかげで、二葉バレー部は、見事に県大会で初優勝、インターハイ全国大会に出場した。

私は、昭和三十年には順天堂体育学部三年編入、三十二年に再び二葉の教壇に立つも病を得て入院。二葉に復帰したのは昭和三十四年だった。四十年代にバレーの黄金時代を迎え、全国大会でも長野県に諏訪二葉あり、といわれるチームに育った。昭和五十二年五十三年には私の長女、次女が相次いで二葉に入学。五十四年の大阪インターハイに、長女キャプテン、次女マネージャー親父監督として出場。そしてついに昭和五十六年三月二十三日、私を育ててくれた二葉に別れを告げた。



## 我が青春

### その名は二葉

立石 巖

諏訪湖畔の秋たけなわ。岡谷南高の校庭に清純な乙女達

この三十年間で片瀬校長先生をはじめ、九人の校長先生方に大変な温情を賜り、篠原先生、田中弁一先生、藤森一男先生、赤羽幸雄先生、奥村の睦ちゃん等々、諸先生方のご支援と、いつも心の支えであり、信じることの尊さ、生命への尊厳を無言のうちに教えてくれた卒業生諸姉に多大なる感謝をして拙文をおく。

心ふるさとその名は二葉！  
川はいつも流れていなければならぬ  
頭はいつも冷えていなければならぬ  
目はいつも澄んでいなければならぬ  
心はいつも燃えていなければならぬ  
二葉はいつも素晴らしくあらねばならぬ

立石 巖先生の

プロフィール

S26年着任、30年間体育、特にバレーボールでは国体、県大会の監督としての活躍は忘れ得ぬ。あだ名はゲンちゃん。奥方・長女・次女二葉勢に囲まれて、諏訪市在住。

# 総会報告

平成九年

平成九年五月三十日(金)  
 十時三十分～十五時三十分  
 於・東洋軒ホール 出席者二四一名(来賓三名)  
 (客員一名)

- 一、開会の辞 司会 副支部長 青木朋江(高6)  
 二、校歌斉唱(一、三、五番)ピア 副支部長 山田秀子(高6)  
 三、支部長挨拶 支部長 山田淳子(高4)  
 四、来賓・客員の紹介 支部長 松村田鶴(高5)  
 重田 肇学校長、原田秀子同窓会会長、  
 宮坂みち子同副会長、野村トモ先生、鮎沢 渡先生  
 五、議事

- 議長選出 議長 小倉きよ子(高5)  
 1 平成八年度事業報告 副支部長 宮澤澄子(高5)  
 総会の名称を「年度」から「一年」に変更する  
 2 平成八年度決算報告 会計 渡辺さと子(高9)  
 今年度は本会計と総会会計を別に計上した  
 3 会計監査報告 監査 伊藤順子(高7)  
 4 平成九年度役員承認 支部長 松村田鶴(高5)  
 支部長 青木朋江  
 副支部長 山田秀子 北山千恵 齋藤三千代  
 会 計 小浜たか子 田村修子  
 記 録 小林厚子 笹本かつ子 浜 静子  
 5 平成九年度事業計画案 副支部長 山田秀子(高6)  
 今年度は東京支部名簿を作成  
 6 平成九年度予算案 会計 小浜たか子(高10)  
 1～6 総て承認 可決  
 7 議長解任  
 六、来賓祝辞 重田 肇学校長  
 原田秀子同窓会会長  
 野村トモ先生 客員たより紹介  
 七、客員挨拶 新支部長 青木朋江(高6)  
 八、新役員紹介と新支部長挨拶  
 新支部長 青木朋江(高6)  
 九、講演「人間として生きる」  
 東日本国際大学教授、哲学者 明珍昭次先生  
 十、アトラクション  
 独唱「日本の歌」 秋山ミチ子(高11)  
 十一、花束贈呈(高女26回)四名 斉唱  
 十二、白き翼、今日の日はさようなら 三澤章子(高12)  
 十三、閉会の辞 記録 瀬戸洋子(高14)  
 (文責・齋藤)

- 活動のあらまし 平成八年度  
 平成九年四月一日 東京支部たより二二葉、五号発行  
 新役員引継会  
 支部長挨拶、自己紹介、一年間  
 の反省、会計報告、各係毎に引  
 き継ぎ後新役員打ち合わせ  
 七年度総会の反省、八年度事業  
 計画、第一回幹事会準備、支部  
 だより発行日程原案作成  
 支部だより編集会議  
 支部長挨拶、副支部長交替承認  
 役員・幹事自己紹介、七年度総  
 会反省、会計報告、八年度事業  
 計画、役員幹事名簿配布、編集  
 会議  
 九年総会、歴代正副支部長会開  
 催・第二回幹事会準備、支部た  
 より編集  
 総会講演会講師・アトラクショ  
 ン承認、支部だより状況報告・  
 配布数・方法、会員数把握の為  
 名簿確認、総会年度の呼称変更  
 次年度幹事選出依頼、編集会議  
 東京支部活動の歩みについて  
 18名出席  
 総会準備、支部だより状況報告  
 名簿作成、第三回幹事会準備、  
 会計監査、会計引継ぎ日程、会  
 計決算方法の変更  
 総会プログラム作成、支部だよ  
 り等配布物発送の準備  
 九年総会についての準備  
 維持費納入状況報告、支部だよ  
 り発送依頼、一年間の反省、感  
 想、新役員紹介、新幹事登録  
 会計監査、総会準備  
 総会前日準備

- 臨時役員会  
 第一回幹事会  
 第二回役員会  
 第三回役員会  
 第四回役員会  
 第五回役員会  
 第六回役員会  
 総会  
 ※各幹事会終了後臨時役員会を開いている

## 平成8年度決算報告書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

諏訪二葉高校同窓会東京支部

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
1 前年度繰越金	1,972,447	1 総会	120,000
2 維持費	1,478,290	講師・演奏者謝礼	139,216
3 雑収入	61,214	東洋軒会場費等	42,587
4 還入金	115,000	雑費	214,240
合 計	3,626,951	2 会報印刷費	2,210
		3 名簿基金	200,000
		4 役員通信費	37,000
		5 役員交通費	100,350
		6 役員会・幹事会	358,243
		7 通信費	307,180
		8 印刷・コピー代	23,367
		9 事務用品費	29,776
		10 同窓連合会関係	36,740
		11 雑費	90,623
		12 次年度繰越	1,925,419
		合 計	3,626,951

「総会 東洋軒会場費等」内訳  
 ・当日会費入金 1,280,000(5000×256名)  
 ・東洋軒へ支払い  
 { 会食代 1,230,800  
 その他 188,416 会場関係費 税、奉仕料等  
 差額(本会計より支出分) 139,216

上記の通りご報告いたします。

平成9年3月31日  
 平成8年度会計 池田 康子 ㊟  
 波辺さと子 ㊟

(単位：円)  
 上記は会計監査の結果間違いありません。  
 平成9年5月2日  
 平成8年度会計監査 伊藤 順子 ㊟  
 小平ミキ子 ㊟

平成9年総会  
講演要旨

# 人間として生きる

みよろん しょうじ  
明珍 昭次 先生



いた。歩く時も軽業師がとんぼ返りをするように走った。非常に力が強く、最高神・ゼウスに逆らい高慢にも天に昇ることを企てた。

私、この会の一員である名越先生からお招きを受け、みちのくからやってきました。

さて、みなさんの身体の真ん中に位置している窪み、英語でNAVELといっています。臍です。どうしてちよっとねじくれているのでしょうか。ギリシアの哲学者でプラトンという人がいます。『饗宴』というタイトルのついた対話篇の中のアリストパネスという人の話に、臍の話が出てきます。この神話を紹介したい。

昔、人間には男と女のほかにおとこおんながいました。男はおとこおとこが向きあわさってきつた状態。女はおんなとおんなが合体したもの。おとこおんなは男と女があわさってできたもの。この三種の人間がいた。手が四本、目が四つある。顔は後ろを向

見る度に思い出させるためでした。

さて、それぞれ裂かれた半身を求め、男と男が求め合うのをホモといい、女と女が求めあうのをレズビアンという。そして男と女が求め合うのが恋愛だということ、二千年数百年前にすでに、ホモ・レズ・恋愛が語られている。これは世界で最古の恋愛論ではないか。これがギリシャ神話の中にある。元々は一般民衆や羊飼いが、夜、星をみながら創った物語。彼らは、生活は貧しかったが想像力は大変豊かだった。暮らしたかな現代人にはこの想像力が欠けていると思います。

さて、動物のコミュニケーションは信号でおこなわれます。人間は信号も言葉も持っている。信号とは今ここに示すもの、今、この状況を示すものです。

言葉を持つていると、過去のことも未来のこともコミュニケーションできる。言葉と指し示すことができる。想像力を支えるのが言葉です。では人間はどうして言葉に身に付けるようになったのか。人間の先祖は猿です。アフリカで生まれ、樹上生活をしてきたものが、よつんばいとなり、後ろ足で立つようになり、

化してきた。立つことにより、喉に変化が起り、複雑な発音の言葉が生まれ、猿とは全然別の生物になった。人間は言葉を持つようになったから人間になったのです。人間の人間たるあかしとは直立歩行し言葉を話すことです。

本を読むことは活字に意味を与え、活字と活字・行と行の間を、想像力を働かせて埋めなければできないのです。人間として生きるためには、読み、書き、話し、言語に親しむことが大切です。

また、親指と他の指を向かい合わせる事ができるのは人間だけです。趣味をもつことも大切で、指を動かすような趣味を持つことが大事です。次に「人間てなに？」と聞かれたとき、それは人のことだと答えるでしょう。辞書を見ると、人間とは「じん・かん」と書いてあり人の住むところ、世の中、世間と書いてある。人間の第一の意味は、生物ではないのです。場所、空間であり人と人とのあいだ柄が大事だということです。人間として生きるためには、支え合う他人との連帯関係が大事です。

こども生きられる、あかも生きられる、こどもでできる、あかもできる――人間には生きる可能性の複数の選択肢があります。その中から一つ選ぶ。一つ選ぶことによって、その後の在り方、生き方が変わってくる。複数の選択肢を並べて、自分の生き方を選んでゆくことが人間らしく生きるということなのです。

その人間は残念なことに死亡率一〇〇%です。しかも、いつ死ぬかわからない。伊勢物語の在原業平は、ついにゆく道とはかねてききしかど きのふけふとは 思はざりしを

と歌っています。ラテン語で、モルルス・ケルタ(死ぬことは確実)、ホーラ・インケルタ(死の時は不確実)。今日が人生の最後の日であるかのように、一瞬一瞬の充実した生き方を求めることが大事です。人生八〇年のペース配分を考え、どう生きるべきかを考えながら生きるのが、人間らしい生き方なのです。

講師プロフィール

一九二九年福島県会津若松市生れ。東北大学大学院哲学専攻修了。福島大学教授を経て現在東日本国際大学教授。著書『民俗の現象学』『人間の情景』『小・中の先生たちへの応援歌―哲学と教育学のはざまから』、翻訳『ダン・ハム』『英雄と異端』など。

# 総会報告

平成十年

平成十年五月二十六日(火)  
十時三十分〜十五時三十分  
於・東洋軒ホール 出席者二四名(来賓二名、客員四名)

活動のあらまし 平成九年度

- 一、開会のことば 司会 副支部長 北山千恵(高7)
- 二、支部長挨拶 副支部長 齊藤三千代(高7)
- 三、来賓・客員の紹介 支部長 青木朋江(高6)
- 高林徳枝同窓会会長、宮本せつ子同副会長
- 野村トモ先生、饗庭いち子先生、近田ユキ先生
- 鮎澤 渡先生

- 四、議事 議長 長田正江(高6)
- 1 平成九年度事業報告 副支部長 山田秀子(高6)
- 2 平成九年度決算報告 会計 田村修子(高10)
- 3 会計監査報告 会計 小浜たか子(高10)
- 4 名簿監査報告 監査 小林郁子(高8)
- 5 名簿作成に関する件 監査 奥村千江(高8)
- 6 次回会員名簿の発行は八年後とする
- 7 維持会費送料に関する件 記録 笹本かつ子(高15)
- 8 会費は値上げせず振込手数料を個人負担とする(赤い用紙から青い用紙に)
- 9 役員間の交通費、渉外費の負担に関する件
- 10 平成十年度役員承認ならびに新支部長挨拶

- 支部長 北山千恵
- 副支部長 齊藤三千代 宮川秀世 小林郁子
- 会計 竹内美穂 守屋静子
- 記録 五味和子 五味稔子 西村真由美
- 村瀬茂子
- 8 平成十年度事業計画案 副支部長 齊藤三千代(高7)
- 支部長より「二葉」第六号発行 竹内美穂(高11)
- 9 平成十年度予算案(会計) 可決
- 10 議長解任
- 11 来賓祝辞 高林徳枝同窓会会長
- 12 客員挨拶 鮎澤 渡先生
- 13 講演ならびに歌唱指導 作曲家 平井康三郎先生
- 14 「コトバと音楽」

- 15 閉会のことば 副支部長 宮川秀世(高8)
- (文責・齊藤)

活動のあらまし 平成九年度

平成十年五月八日 東京支部会員名簿発行

9年 第一回役員会

6/20 第一回役員会

7/1 第一回幹事会

7/25 第二回役員会

7/13 第三回役員会

9/5 名簿編集会議

9/12 名簿編集会議

9/13 第三回役員会

10/13 第三回役員会

11/14 名簿編集会議

12/22 1/20

10年 歴代正副支部長会

1/13 第二回幹事会

1/20 第二回幹事会

1/20 第四回役員会

2/24 名簿編集会議

3/9 第五回役員会

4/2 第五回役員会

4/3 第三回幹事会

4/3 第六回役員会

5/1 第七回役員会

5/25 第八回役員会

5/26 総会

※各幹事会終了後臨時役員会を開いている。

## 平成9年度決算報告書

(平成9年4月1日〜平成10年3月31日)

諏訪二葉高校同窓会東京支部

1. 収入の部

項目	予算	決算	備考
維持会費	1,480,000	1,793,252	振込 1,074,752 現金 718,500 1000円×1,775人 500円×106人
前年度繰越金	1,925,419	1,925,419	
名簿積立基金	1,500,000	1,500,000	
還元金	0	0	
雑収入	1,000	1,379	
収入合計	4,906,419	5,220,050	

2. 支出の部

項目	予算	決算	備考
総会	130,000	130,000	
講師・演奏者謝礼	80,000	96,444	
東洋軒会場費等	70,000	54,910	案内・総会式次第
諸経費	1,700,000	1,700,000	別途報告
名簿基金	40,000	105,020	役員交通費 68,020
役員通信費・交通費	10,000	4,651	
慰金	360,000	358,014	
役員会・幹事会	500,000	493,360	9年総会案内・会費返還
通信費	60,000	57,470	
印刷費	30,000	28,807	
事務用品費	37,000	35,000	東南信同窓連合会費
同窓連合会関係	89,415	312,798	総会参加費
雑費・予備費	3,106,415	3,376,474	総会サービス料・消費税・生花代・名簿作成のための役員会
支出合計	3,106,415	3,376,474	

3. 残高の部 5,220,050円 - 3,376,474円 = 1,843,576円

## 平成9年度 名簿作成会計報告

名簿会計決算報告 (単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
積立基金(前年度まで)	1,700,000	名簿印刷作成費(含広告掲載料)	1,537,725
広告料	280,000	郵送料	622,330
1110年本会計助	193,720	振込手数料	735
	210,055	次期繰越金	222,985
合計	2,383,775	合計	2,383,775

(平成10年5月31日)

上記の通りご報告いたします。平成10年3月31日  
平成9年度会計 田村 修子 小浜たか子

上記は会計監査の結果間違いありません。平成10年5月1日  
平成9年度会計監査 小林 郁子 奥村 千江

講演要旨

# コトバと音楽

平井康三郎 先生



東京支那協会会長  
定期総会  
「閉会式」  
平井康三郎先生

平井先生、先程の三部とは、又、違った新しい感じがあります。非常に変化のある編曲です。又、適当な機会にぜひ、お歌い下さい。

校歌で三部に作曲されている歌というのは、私の場合十数曲はあると思います。音楽授業の程度を調べておいて、例えば東京では学芸大附属の世田谷中学、ここでは大変良い教育をしています。東北大学の教育学科は附属小学校ですけれども、フルオーケストラでやっていますし、沼津の子商業高校も、立派なフルオーケストラがあります。

そしてここに二葉高校の校歌があり、二部と三部の合唱ができていますということになりますので、どうぞ他の学校と校歌の自慢をする場合は、誇り高くおっしゃって下さい。

まず「平城山」がうまれたいきさつをお話します。北見志保子の短歌を選びました。それは、女流短歌の結社の雑誌「草の實」の出版記念の年先輩でもある林古溪先生より

歌集の中から一曲でいいから作曲して下さいと頼まれましたので快く引き受けました。私は高知県の伊野町出身、北見さんは高知県の宿毛出身ということもわかりました。

この曲ができたのは原稿を林先生からいただきJR山手線「田端」の駅から乗り神田で中央線に乗り換え、「お茶の水」のプラットホームに降り立った時、ふつと最初の二小節即ちあの「人恋うは」のメロディーが浮かびました。あとはスムーズに「悲しきものと平城山に」と盛り上がり出て出来ました。そこへ電車がきまして新宿までメロディーが出来上がりました。後は早速自分の家でピアノ伴奏をつけ歌曲の第一曲ができました。

第二曲目は八ヶ岳の渓流を歌った自然歌の「ヤマメの歌」ですが後に題名を「甲斐の峽」と改め二曲目が出来ました。

ついで終曲の「九十九里浜」の雄大な歌曲も出来上がりました。北見さんという方は「平城山」のような万葉調の明るく、深い感性をこめた抒情歌ばかりでなく「甲斐の峽」の山吹の岸に乱るる谷川にヤマメ育つとふ甲斐の国原という自然の清々しい描写や

「九十九里浜」の如く男性的な壮大な歌もあり、スケールの大きい歌人であると思えました。（「甲斐の峽」「九十九里浜」の両曲を平井先生独唱）北見さんの人物像もちょっと面白いのですが恋愛歌人としても和泉式部や与謝野晶子に比すべき歌人の一人だろうと思います。

またこんな逸話もあります。ペンネームをつける時も頼まれ、北見さんの台所にあった北海道から送られた塩鮭をみて、北見志保子としてしまった事など愉快な屈託のない人柄を感じます。

信州と関係ある北見さんの歌で雄大な力強い「浅間山」というのもあります。北見夫妻のお墓も諏訪に立派なものができ上ったことはまことに喜ばしい出来事です。

今日は私の色々な面を御披露するという事で音楽学校の学生の頃に作詩・作曲して発表した「ゆりかご」を（一諸に歌いたいと思います。

（全員で歌う）また島崎藤村の「瀬音」（二部合唱曲）林古溪の「雲雀」これも在学中出版しています。

NHKの仕事としましては、番組のテーマ音楽として「話の泉」また美容体操の音楽を

手掛けました。詩の朗読も三年続け、名優の人達ともお付き合いがありました。教科書の編纂を戦後頼まれました関係で子供の歌をいくつか作りました。新幹線の中で隣にいる私を知らず、一生懸命「とんぼのめがね」を歌っている子供を見て、子供達の歌も作らなければと思いましたが、GHQと相談しながら、良い教材作りに協力しました。日本語を美しく歌うということが大事な事になります。二葉の校歌は傑作だと思います。誇りを持ってうたっていたいだきたいと思えます。

講師プロフィール  
作曲家・指揮者・芸大卒  
第五回日本音楽コンクールで作曲第一位受賞。  
紫綬褒章勲四等旭日賞叙勲。「詩と音楽の会」会長。「平城山」他多数



「平城山」他多数

# 白い校舎 誕生のころ

まなびや  
**学舎 感謝をこめて** —



●日本青年会館 ●司会 宮川秀世 副支部長 (高校8回)

北山 千恵 (林) 高校7回 支部長  
 齊藤三千代 (笠原) 高校7回 副支部長  
 池上 尚子 (平林) 高校8回 会報担当  
 小林 郁子 (山田) 高校8回 副支部長

・卒業年次及び五十音順・敬称略  
 ・文・構成：協力 フリーライター 平松あゆ子 (高校35回)  
 ・写真提供 矢島チゾ (増沢) 高女28回 諏訪在住  
 荻上利江 (小松) 高女29回 諸田睦子 (小池) 高校7回

西洋建築の新校舎が誕生したのは昭和8年のことです。現在の校舎が改築されるのを機に、旧校舎から新校舎への引越しを体験した高女卒26回、30回の方々に集まっていたいただき当時の様子を語っていただきました。

## 旧校舎を偲びつつ、 モダンな新校舎に

### 誇りを持って

#### 夏休みの引越し

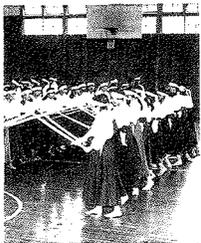
△司会▽新しい校舎への引越しは、どのように進められたのでしょうか？  
 ・机や教材などを旧校舎から運んだことをよく覚えていますよ。理科の標本も風呂敷に包んで運んだり。  
 ・新校舎と旧校舎を何往復もしたんですよ。いつも「これが最後のかなあ」と思いながら、旧校舎の芝生にねころんで歌を歌ったりしました。  
 ・坂をのぼらなくちゃいけないから大変でしたよね。  
 ・できるだけ近道をしようと、校舎の下のせまい道を通ったりして。  
 ・引越を手伝ったのは、ほとんど上諏訪の生徒でした。家が近いからと、呼び出されて(笑)。  
 ・岡谷とか、遠方から通っている生徒にとっては、それが逆にうらやましかったんですよ。上諏訪の人たちは、先生と仲良くなれていいなあって。  
 △司会▽新校舎はモダンでしたから引越も楽しかったのでは？  
 ・当時、長野県下で最もモダンな校舎でしたから、それはもう、誇らし

かった。

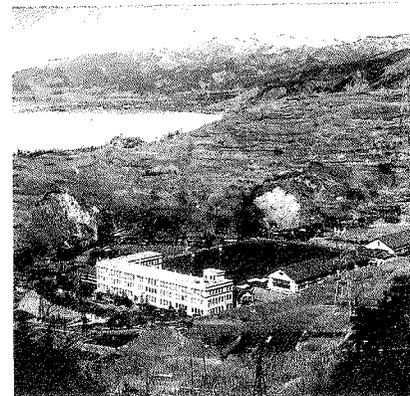
・本館だけでなく、講堂も体育館もすべて完成していて、とっってもうれしかったのを覚えています。  
 ・でも、現在の高島小学校にあった旧校舎には、みんな愛着があって、別れるのが辛かった。うれしさよりもさみしさのほうが強かったかもしれないですよ。

#### 夢中になった床磨き

△司会▽新校舎へ引越してから、どんな作業をしたのですか？  
 ・新校舎に移ってからです。床磨きでした。  
 ・床板は高価な白木の桜材だったのよね、だから、光沢を出そうと放課後、一生懸命磨きました。  
 ・最初のうちは糠袋で磨いていたんだけど、そのうち「おから」のほうで光沢がでるということになって。  
 ・そうだったわね。毎日近所のお豆腐屋さんからおからを分けてもらって、学校に行きました。  
 ・教室の前の廊下は、各クラスで競って磨いていたわね。  
 △司会▽それは、先生方に指導されたのですか？  
 ・体操の大森先生が指導してくださいました。  
 ・でも、先生方に命令されてやったという感じではなかったのよ。



体操の大森先生が指導してくださいました。  
 ・でも、先生方に命令されてやったという感じではなかったのよ。



・みんな自主的に磨いていたわね。とにかく、磨いているうちにピンク色になっていって、ピカピカになるのが楽しくって。  
 ・体操クラブでは、体操場の床磨きをしたんですよ。床磨きをしないとクラブ活動が始まらない、という感じでした。

## 教師と生徒の手による 「庭造り」

大変だった石拾い  
 △司会▽校庭の整備はいかがでしたか？  
 ・新校舎は、畑や山を切り拓いて造られたものだから、校庭は石がゴロゴロしてたのよ。だから、石拾いが大変だったの。  
 ・そうね。夏休み中に引越しを終えたから、二学期から新校舎で授業を受けていて、放課後は石拾いばかりやらされましたね。  
 ・「作業の時間」といって、モンペに着替えて石をひろいましたねえ。  
 ・地面から5センチほど頭を出している小石をとろうと思って掘ってみたら、岩のような石でびっくりした

## モダンな

— さようなら 消えゆく

●平成10年9月1日

## 出席者

小山 志げ (中沢)	高女26回	荻上 利江 (小松)	高女29回
藤森 政子 (岩波)	高女27回	小口 方子 (小口)	高女30回
山田 絹枝 (河西)	高女27回	名越千栄子 (清水)	高女30回
名川 愛 (岩波)	高女28回	山本 郁子 (増沢)	高女30回
柳下 美文 (塚田)	高女28回		



ことも  
(笑)。

・30回生の私たちが入学した頃は、すでに新

校舎だったんですよ。試験も新校舎で受けて、床も磨き抜かれていて、恵まれていましたけれど、石拾いだけはやりましたよ。

・放課後以外でも、体育の時間には必ず石拾いをしましたね。

・大変だったけど、おかげで校庭で運動会が出来たので、とてもうれしかった思い出があります。

・とくに「遊戯」(ダンス)ができたことがうれしかったわね。旧校舎ではできなかったことだから。

草木の植え込みもゼロから

スタート

△司会▽木なども植えられたと聞きました。

・理科の寺島先生の指導で、山から木や草花を採ってきて、庭に植え込んだんですね。

・歴史の武井先生とも一緒に山に行きましたよ。授業をつぶして行って庭に植えましたね。

・窓から外を眺めていると、数学の森先生が天秤棒をかついで、庭の草木に肥料をあげている姿が見えました。実に熱心な姿で、心を打たれたものです。

△司会▽植木やさんなどの業者の方



の手は借りなかったんですね。  
・ええ、先生と生徒が力を合わせて庭造りをしたんですよ。

・校庭の桜も私たちが植えたのよ。  
・旧校舎の丘の桜がとっても見事だったから、新校舎も同じようにしたいと思ったのよね。

・草刈りも大変だったわね。毎日草を抜いたり、刈ったり、よくやったものだよ。

## 新校舎での学校生活

モダンな造りに感動

△司会▽新校舎にはどんな印象を持ちましたか？

・あの両開きの窓が好きでしたわね。

・確かに、あれはモダンだったわね。でも、当初は開けにくくて、みんな手こずっていました。私は案内、上手に開けられたので、よく「開けて」と声をかけられましたよ。

・窓もよかったですけど、階段の手すりにも模様があって、ステキだな、と思います。

・見た目もステキでしたけど、実際設備も充実していたのよね。

・そうそう。科学室や音楽準備室、作法室といった特別室が完備されていた。

・音楽準備室にはオルガンとピアノが置かれていて、私はピアノを弾きたいがために朝早く学校に行ったのを覚えていますよ。早く行かないとすぐに他の人に先を越されてしまうのよね。

△司会▽建築面でも、当時としては

かなり先進的だったわけですよね。  
・そうだったようですわね。それを感じたのは、昭和9年の室戸台風のときですよ。授業中、窓の外を見たら荒れ狂うばかりに風が吹いていて、スズメが窓ガラスにたたきつけられるほどだったのよ。それでも建物はびくともしなかったものね。  
・雨漏りもしなくて、さすが近代建築、と感心しましたよ。

厳しくも伸び伸びと過ごせた日々  
△司会▽環境はいかがでしたか？

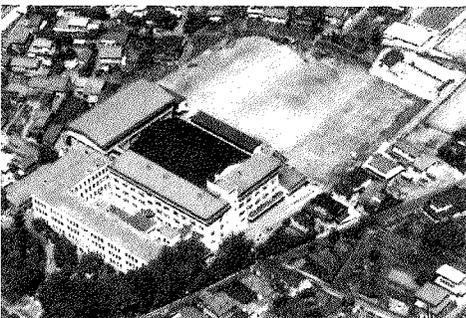
・山を切り拓いて造られた学校ですから、自然には恵まれていました。

・そうね、なんといってもすばらしかったのは、窓から眺める四方の山脈の美しさね。

・それに、カッコウの声が聞こえていて、その声はまだ耳に残っています。競馬場のほうを眺めては、気持ちのいい、空気のいい、なんていい学校だろうと思っていました。

△司会▽学校生活での思い出は？

・男女交際については厳格でしたよ





ね。諏訪中学の生徒に憧れていたけれど、めったに話もできない状態でした。通学路での歩く側まで決まっていたから。

・諏訪中学の運動会を見に行っただけで停学になった人もいたわね。

・それに、バス通学するのにも学校の許可が必要だったのよね。それぐらい厳しかった。

・でも、教育面では伸び伸びしていたと思います。通信簿なんてなかったもの。

・級長も、背が高い人がやるとかね成績がいいとかいう価値観ではなかった。

△司会▽服装はどうでしたか。

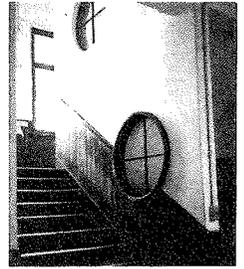
・当時は、緋の着物に木綿の袴、日和下駄という姿で通学していました。絹は禁止されていたのよね。

・そうそう。遠足ではワラジ履き。登山では袴を途中で縛る「くくり袴」という恰好でしたよ。

・確か、28回生が制服にして、と先生に交渉したんですよ。

・西洋かぶれだ、と云われながらの

交渉でした。ね。それで、まづ体操服が決めたものになって、次に制服が決まったんです。



・授業も新しい考え方を取り入れていた時期だと思います。英語はリーダーをすべて学んだし、和裁だけでなく洋裁も教わりましたもの。

△司会▽旧校舎から新校舎へ移った頃というのは新しいものを取り入れる時期でもあったんですね、男女交際については厳格だったけれど…。

本日は貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。

座談会を終えて

芝生あり  
林あり白き校舎あり

清き世ねかふ 少女あれこそ座談会を終えて思いました。

昭和十年、歌誌「アララギ」に、土屋文明先生が教え子、伊藤千代子の死を惜しんで詠んだ中の一首です。この白き校舎が出来上がった時代や経緯に思いを致すと、先輩方が語られた一言、ひと言に、その歴史の重みを感じたのです。

昭和初期、世界に経済恐慌の嵐が吹きまくり、日本もその下で大変なようでした。

「試験地獄」という言葉が流行語になる程、高等女学校への志願者が、増加した。昭和四年、補習科を加えて十三学級になり、スシ詰めの子校舎は狭くなりパンク寸前だった。地元では学級増を望む声が高まり、上諏訪町会は校舎移転、改築を必要とする場合には、寄附を為すと議決された。昭和五年、漸く先の宮神社北側敷地が移転先に決定したが町長が替わり、平坦市街地は将来、発展すべき土地とみて、岡村百姓地に途中で変更。昭和六年、この土地を買収して寄附することを全会一致で議決した。

敷地工事は縣の設計書に基づき失業救済事業とする。起工は二ヶ月後と急ピッチに進んだのは、上諏訪町会の努力によるところ大であった。翌年の昭和七年「近世式自由型鉄筋コンクリート三階建て」の本館と雨天体操場から講堂までの木造平屋建て、合計14万8134坪の計画に着工した。

この仕事を精力的にこなされていた第五代三村安治校長は新校舎の完成を前に三月十一日急逝された。どれ程か無念であったろう。次いで、第六代岩本義恭校長のもとで「有難さを思へ」「素直であれ」「本気で働け」の校訓ができた。先代校長の主張を受け継ぎ、理想的な良妻賢母の育成を目指し、その伝統を堅持したのである。当時の様子を「長野県諏訪二葉高等学校七十年誌」より抜粋しました。

こうした時代を背景にモダンな新校舎は女子中等教育のシンボルとして諏訪地方の人々、長野県教育界にとって誇り高い財産となったのです。あの正面玄関、階段おどり場の円窓、黒光りした床……。卒業生みんなが慈しんだ思い出の数々が失われてしまう。せめて、その一角でも良いから、私たち二葉の「文化遺産」をぜひ遺して保存できないものだろうか。そんな思いもしてきます。

半世紀を経た今日時代が大きく移り変わり、教育制度や内容も変わりました。時代の要請に対応するためには、現校舎では間に合わなくなっただけでしょう。新しい校舎改築へと踏み出しています。伝統を生かしつつ後輩たちが元気に新しい校舎から巣立つことを願っています。

今回の企画に快くご出席下さり、翼鏢として、凛と語るお姿に「諏訪高女ここにあり」と拍手を贈ります。最後にお寄せ下さいました歌をご紹介します。まとめにさせて戴きます。

新校舎の思い出

・間なくして建て替ふるとふ学び舎に思ひを  
・残す人みな老いつ  
・糠袋手に磨きたるも  
・新校舎廊下ひかりしを  
・誇らかに言ふ  
・少女らが石を運びて  
・拓きたる花壇に四季の花も咲きしよ



山田絹枝（高女27回）

# 文苑

## 短歌

パクス・ロマーナ  
 丈低く咲けるアネモネポーポリ園にポッティチェリの〈春〉  
 漂ひ出づる

五味 武子 (高校8回)



肥沃野はなだらかに緑 アッシジの自然も人も旅人和ませ  
 自らに清貧を課せし裸足の聖者 われも小鳥となりて頷く  
 刈り込まれPAXの草文字アッシジの園に祈りの鐘鳴り渡る  
 パクス・ロマーナ目ざせしカエサル 寛容は異民族にも他宗  
 教にも

増澤 悦子 (高校8回)

ゆく先きも辿りしあとも草もみち尾瀬湿原を雲の影ゆく  
 馬の背に乗れば背すじがおのずから 伸びてはろけし  
 八ヶ岳の峰  
 奥信濃のはにかみ強かりし子ら憶ひ出づオリンピック開会式  
 雪ん子の舞

## なつかしい あゝの頃、あゝの道

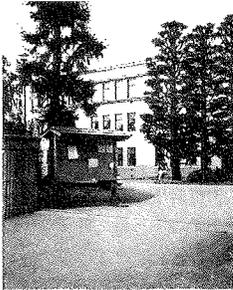
覚本 秀子

(高校17回)

二葉高校を卒業し故郷を離  
 れて35年が過ぎようとしてい  
 ます。桜が一斉に咲きほころ  
 ぶ春四月、諏訪にお住まいの  
 友人に誘われ、御柱祭を見に  
 行きました。

その折、手長丘の上の旅館  
 に宿をとり、「なつかしいあ  
 の道」を散策しました。

早朝五時頃宿を出て、手長  
 神社から上諏訪中学の前を下  
 り、友と通った図書館のあつ  
 た辺りで一休み。ジョギング  
 する人が、ちらほらする木立  
 ちの間を通りぬけ、通学路だ  
 った岡村から二葉ヶ丘に続く  
 坂道の風情は、あの頃のまま  
 でした。こんなに狭い道だっ  
 たかしらと一歩一歩踏みしめ  
 ながら、思い出すのは共に歩  
 いたあの頃の顔・顔・顔…。  
 坂を上りつめると丘の上に現



れる白壁の校舎。山間の大自  
 然を背に平和な姿で、まるで  
 一幅の絵のようでした。二葉  
 で学ぶ者の誇りを象徴してい  
 た重厚なこの建物も長い年月  
 の風雪に耐えられず取り壊さ  
 れると後に聞きました。思い  
 がけず最後の姿を心に刻むこ  
 とができました。

地藏寺の下を通り清陵高校  
 の方に足を運んでみました。  
 マラソン大会の時、清陵の生  
 徒が授業を抜け出して応援し  
 てくれた道です。あの時の情  
 景が目に見えてきます。

近くにある父母の眠る墓に  
 詣で、再び宿へ…。二時間足  
 らずの散策でしたが、タイム  
 スリップで、「なつかしいあ  
 の頃」に戻ることができまし  
 た。久しぶりに少女のように  
 胸ときめいたのは、諏訪の自  
 然の美しさのせいでしょうか。

ふるさとに  
 残しし愛をひもときて  
 五十路の春に深くとどめん

## 最近思うこと

フリーライターになって七  
 年。早いもので、私も33歳に  
 なります。年齢を隠すような  
 女にはなりたくないと思いつ  
 つ、最近笑ってごまかすこ  
 とが多くなっています。

現在、私がメインの仕事と  
 しているのは、「シルバー」  
 ネス関連です。「シルバー」  
 といっても、銀食器とか、ア  
 クセサリー類のことではなく、  
 高齢者対象のビジネス関係で  
 す。

取材先はというと、老人保  
 健施設や老人ホーム、病院、  
 介護関係のグッズのメーカー  
 などなど。

この仕事を始めるまでは、  
 老人ホームなどという施設に  
 は、まったく縁がありません  
 でした。それだけに、なんと  
 なく暗いイメージがあったの  
 ですが、実際はそうでもあり  
 ません。そして、いくつもの  
 施設の取材を重ねるうちに、  
 実に様々な「老い方」がある  
 のだということに気がつきま  
 した。

好きなことを続けて生き生  
 きとしている人もいれば、悲  
 壮感に満ちた人もいます。  
 誰もが、将来のことはどう

平松 あゆ子 (高校35回)



なるかわからないものです。  
 でも、老いていくことだけは  
 確かです。

きれいでいたいとか、若さ  
 を保ちたいとも思うけれど、  
 「老い」ということに対して  
 正面から向き合う必要もある  
 な、と最近思うのです。

私たちは、老いることに對  
 して、とかくマイナスイメー  
 ジを抱きがちです。年齢を隠  
 したくなるのも、その現れだ  
 とする。

「若さを保つ秘訣」も大事だ  
 けど、ステキな老い方を探求  
 したいとも思う今日この頃で  
 す。



ご冥福をお祈りいたします

客員	会員	敬称略
H8・9 押見 三郎 先生	H3・ 有賀 清子 (有賀) 女27回	
H9・10 寺島 操 先生	H5・6 藤森さか江 (藤森) 女11回	
H10・4 山崎 新蔵 先生	H5・5 増沢 ぎん (三村) 女11回	
H10・9 三井 為友 先生	H5・5 角津 絹子 (中山) 女38回	
H10・12 池上 正治 先生	H6・ 北沢さち子 (松木) 女21回	
	H6・ 宮下 泰子 (岩本) 女16回	
	H7・ 森 かほる (中村) 女23回	
	H7・1 白沢 ちよ (三枝) 女12回	
	H7・3 宮坂 けい (小松) 女5回	
	H7・11 向井 よ志 (佐野) 女8回	
	H7・11 土橋 千穂 (飯田) 女12回	
	H7・11 村田 斐子 (村田) 女24回	
H8・2 原 しづか (両角) 女11回	H9・ 小沢まつ子 (小林) 女21回	
H8・6 齋川 光子 (上田) 女23回	H9・1 立石はる子 (小口) 女23回	
H8・7 鶴田美智江 (野村) 高25回	H9・1 林 由希子 (林) 高1回	
H8・8 宇佐見勝子 (赤峰) 女16回	H9・3 藤森喜美子 (岩波) 女27回	
H8・10 鮎沢 清子 (鮎沢) 女9回	H9・12 有賀 和嘉 (宮坂) 女23回	
H8・12 多田八千代 (岩波) 女21回	H9・12 多田八千代 (岩波) 女21回	
H9・1 柴田 春子 (市山) 女20回	H9・1 丸山 春枝 (土橋) 女32回	
H9・12 小林 かつみ (原) 女16回	H9・2 小林 松子 (小口) 女17回	
H9・11 河西美佐子 (里見) 女33回	H9・3 小泉けさみ (征矢) 女9回	
H9・12 両角しづ江 (関) 女14回	H9・4 小平 嘉子 (増沢) 女25回	
H10・1 市山 春子 (市山) 女20回	H9・4 尾形 達子 (河西) 女22回	
H10・12 小林 かつみ (原) 女16回	H9・4 有賀 達子 (宮沢) 女28回	
H9・11 河西美佐子 (里見) 女33回	H9・5 松本 ふさ (岩波) 女24回	
H9・12 両角しづ江 (関) 女14回	H9・6 伊東 玲 女37回	
H9・11 河西美佐子 (里見) 女33回	H9・6 穴山みつ江 (長田) 高8回	
H9・12 両角しづ江 (関) 女14回	H9・7 山崎 道子 (前田) 高4回	
H9・11 河西美佐子 (里見) 女33回	H9・10 宮坂 節子 (宮坂) 女31回	
H9・12 両角しづ江 (関) 女14回	H9・10 小松 貞子 (鈴木) 女28回	
H9・11 河西美佐子 (里見) 女33回	H9・11 古沢 南枝 (牛山) 女18回	
H9・12 両角しづ江 (関) 女14回	H9・11 年月不明 両角 松江 (関) 女8回	

東京支部再興に

ご尽力下さった

三井為友先生を悼む

二葉高校同窓会東京支部会  
員一同心からお悔みを申し上げ  
ます。

三年前の総会に若々しいお  
姿でご挨拶を頂き、まだまだ  
お元気で活躍と思っております  
ました私共はこの上ない悲し  
みに打ちひしがれております。  
先生が力を尽し再興して下  
さった同窓会の灯を、大切に  
守り育て益々発展させます事  
をお誓い致します。  
どうぞ安らかにやすみ下  
さい。  
(中電)

東京支部活動記録

平成8年度

役員 支部長 松村田鶴  
副支部長 宮澤澄子 青木朋江  
山田秀子 10/22より  
(名越智恵子 10/22まで)  
会計 池田康子 渡辺さと子  
記録 平尾香代子 寺岡本子 瀬戸洋子

本部理事会出席

8年 4/19 (林、松村) 6/28 8/23 11/13  
9年 2/21 4/18 (松村、青木)

第63回本部総会出席

9年5/10 (林、山田、松村)

長野県高校同窓会連合会出席

総会 8年 7/20(山田、宮澤)

理事会 9/27(松村)

新年会 9年 1/25(松村)

南信高校同窓会連合会出席

総会 8年 6/15(山田、松村、宮澤、青木)

理事会 8年 5/10(松村) 9年 5/27(松村)

親睦旅行 8年10/5~6(宮崎、武井、林、山田、松村、宮澤)

忘年会 8年 12/5(宮崎、林、山田、青木、山田秀)

新年会 9年 1/16(宮澤)

平成9年度

役員 支部長 青木朋江  
副支部長 山田秀子 北山千恵 齊藤三千代  
会計 小浜たか子 田村修子  
記録 小林厚子 笹本かつ子 浜 静子

本部理事会出席

9年 4/18(松村、青木) 6/20 9/26 11/28

10年 2/20 4/17 (青木、北山)

第64回本部総会出席

10年 5/16(松村、青木、山田、北山、宮田)

長野県高校同窓会東京連合会出席

総会 9年 7/12(山田、北山、齊藤)

理事会 9年 12/17(青木)

新年会 10年 1/31(宮澤)

南信地区高校同窓会東京連合会出席

総会 9年 6/21(青木)

親睦旅行 9年 10/25~26(青木、山田、松村、宮澤)

忘年会 9年 12/9 (宮崎、林、松村、宮澤、青木、山田)

編集後記

◇校舎改築の記念特集号をお  
届けします。限られた紙面で  
の企画如何でしたでしょうか。  
◇近世式自由型鉄筋校舎の建  
設に至るまでを調べる中で学  
校長をはじめ諏訪地方の人々  
が女子中等教育へ熱い想いを  
寄せ、並々ならぬ努力があつ  
たことを知りました。改めて  
古いアルバムを繰り、共有し  
た学舎がいとおしくなりました。  
◇「当時は、流れる空気も緩  
やかで、真面目に先生の教え  
に従い、辛かった事、苦しかつ  
た事が忘れられない良い思い  
出になった」と貴重な経験を  
語られた先輩方に、同じ校舎  
で学んだ絆をより一層深く致  
しました。感謝申し上げます。  
◇二十世紀の幕明けと共に新  
校舎が再建される由、名実共  
に新しい充実した二葉高校へ  
の出發になることを願います。  
◇平井・明珍・飯田・立石各  
先生をはじめ会報発行に当り  
ご協力下さった方々、五号ま  
での編集に携わった先輩方々、  
心からお礼を申し上げます。  
北山千恵 齊藤三千代 藤森博子 (高7)  
宮内秀世 小林郁子 高校8回幹事  
竹内美穂 守屋静子 五味和子  
五味稔子 村瀬茂子 西村真由美  
カット 中澤優子 (高9)  
東京支部連絡先 宮川宛  
TEL 〇四二一七九一一二三四五